モラルシンキング概念構築のための探索的研究 (2)

モラルシンキングとクリティカルシンキングの関係

○高比良 美詠子¹・森 津太子²・池田 まさみ³・宮本 康司⁴*(立正大学¹・放送大学²・十文字学園女子大学³・東京家政大学⁴)

キーワード: モラルシンキング, クリティカルシンキング, キャリア基礎力

An examination of the causal relationship between moral thinking and critical thinking

Mieko Takahira¹, Tsutako Mori², Masami Ikeda³ and Koji Miyamoto⁴(Rissho University¹, The Open University of Japan², Jumonji University³, Tokyo Kasei University⁴)

Key Words: moral thinking, critical thinking, career ability

【問題と目的】

本一連研究では、新しい道徳科における「道徳性」を、新学習指導要領に照らして、思考の側面を重視する「モラルシンキング」として捉え直す。そして、その構成要素や関連する資質・能力を検証することで、「モラルシンキング」の概念構築を行うことを目的とする。そしてこの研究結果を、モラルシンキングの教材や教授法開発に繋げることを目指す。

本稿では、一連研究の(2)として、モラルシンキングとクリティカルシンキングの2波のパネルデータの解析結果を報告する。「クリティカルシンキング(批判的思考)」は、道徳科の設定に先立ち、21世紀型能力(国立教育政策研究所, 2013)の「思考力」の一つに位置付けられた必須の能力である。そのため中学校では、総合の時間や各教科の中で、一足先に育成が進められてきた。クリティカルシンキングは一般に合理的で偏りのない判断とされ、考え・議論することで問題や課題の解決を目指すモラルシンキングとも高い相関関係にある(池田・森・高比良, 2018)。しかし、モラルシンキングおよびクリティカルシンキングの育成を目標とする教材や教授法開発に繋げるには、両変数の因果関係に踏み込んだ議論が必要になる。そこで、構造方程式モデリング(SEM)を用いて、中学生を対象とした2波のパネルデータを交差遅延効果モデル(Figure 1)で分析する。

【方法】

調査対象 都内私立中学校に通う女子中学生1~2年生, 計376名(平均12.54歳, $SD=0.55$ 歳)。

調査時期 1回目2018年4月17~18日, 2回目10月9~10日

調査内容 一連発表(1)で作成した中学生版モラルシンキング尺度および青年期クリティカルシンキング尺度(池田・宮本・平田・田中, 2015)を用いた。前者の尺度は「社会・集団とのかかわり」に関して作成されたもので4因子39項目、後者は3因子22項目で、回答はいずれも6件法により得た(因子名はTable 1を参照)。

分析モデルの選定 誤差間の共分散に等値制約を置いたModel 2, 学年からのパスに等値制約を置いたModel 3, 誤差間の共分散および学年からのパスに等値制約を置いたModel 4と、これらの制約を置かないModel 1(解放モデル)の適合度を χ^2 差異検定により比較した。その結果、公正な個人と自己調整の関係、責任ある個人と探究心の関係についてはModel 1を、それ以外の関係についてはModel 3を採用した。各モデルの適合度指標は、RMSEA=.000~.065, CFI=.992~1.000, TLI=.962~1.015であった。

【結果と考察】

結果をTable 1に示す。まず、モラルシンキングからクリティカルシンキングへの因果関係を示すパスaでは、「貢献する個人」「公正な個人」「家族を想う個人」の3因子がクリティカルシンキングの全ての因子を高めること($\beta=.08\sim.23$)、「責任ある個人」はクリティカルシンキングの「探究心

心」「他者理解」を高めること($\beta=.14\sim.17$)が示された。一方、逆方向の因果関係を示すパスbでは、クリティカルシンキングの「自己調整」「他者理解」がモラルシンキングの全ての因子を高めることが明らかとなった($\beta=.08\sim.19$)。

パスaとパスbの関係については、モラルシンキングの「公正な個人」と、クリティカルシンキングの「他者理解」で双方向的に正の関係が認められる場合が多く、対になる因子と相乗的に影響し合う様子が示唆された。しかし、クリティカルシンキングの「探究心」では、パスaからの一方向的な影響が顕著であった。これは、社会・集団とのかかわりに関するモラルシンキングの育成が、クリティカルシンキングの中の「探究心」向上の基礎になる可能性を示唆しており、教材や教授法を考えるうえで鍵となる結果であった。

【引用文献】

池田・宮本・平田・田中(2015). 高校生のキャリア教育とクリティカルシンキング(自主企画シンポジウム) 日本教育心理学会第57回総会発表論文集, 84-85.

池田・森・高比良(2018). 自己評価式モラルシンキング尺度(中学生版)の開発—考え、議論する道徳: 社会・集団とのかかわり編— 日本教育心理学会第60回総会発表論文集. 国立教育政策研究所(2013). 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則

<https://www.nier.go.jp/kaihatu/pdf/Houkokusho-5.pdf>

Figure1. 交差遅延効果モデルの例

Table 1 モラルシンキングとクリティカルシンキングの因果関係

		モラルシンキング			
		貢献する個人	公正な個人	責任ある個人	家族を想う個人
クリティカルシンキング					
探究心	パスa	.15***	.15***	.17***	.15***
	パスb	.02	.09*	.12*	.03
他者理解	パスa	.21***	.23***	.14*	.11*
	パスb	.08†	.15**	.15**	.09*
自己調整	パスa	.10*	.17***	.06	.08†
	パスb	.12**	.19***	.15***	.08*

注: 表の値は標準化係数を示す *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$